



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 岸谷義雄 定価 1部44円 題字 井戸知事

「消したかな」 あなたを守る 合言葉

平成二三年 春の叙勲(消防関係) 伝達式が挙行

平成二三年春の叙勲が四月二十九日に発令されました。叙勲の受章者(消防関係)は、全国で五七八名、うち兵庫県では、元消防団員・職員一七名が叙勲の栄に浴されました。

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から防衛するとともに、幾多の災害に対して、率先垂範して敢然と立ち向かわ

れ、地域の安全・安心の確保にご尽力されました。また、消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されたこと

等、これまでの抜群のご功績により、その榮譽に輝かれました。叙勲の伝達式は、平成二二年五月一〇日(月)午前一時より東京・虎ノ門の日本消防会館ニッショーホールにおいて執り行われ、消防庁長官から各代表者に叙勲が伝達されました。

午後から受章者の方々は皇居へ参入、拝謁した後、記念撮影が行われました。なお、全国の消防関係受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。

Table with 2 columns: 叙勲の種類 (瑞宝小綬章, 旭日双光章, 瑞宝双光章, 瑞宝単光章) and 人数 (41名, 3名, 109名, 425名, 578名)



平成22年春の叙勲伝達式

兵庫県下受章者(消防功労) 瑞宝小綬章 元神戸市 消防正監 西田 和馬

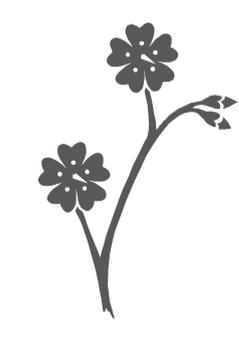
元加古川市 消防正監 井上 好樹 元出石町消防団 浅田 展弘 元姫路市香寺町消防団 白石 光廣 元神戸市兵庫消防団 田中 平章 元加古川市 消防正監 赤松 文夫 元高砂市消防団 長岡 正一 元尼崎市消防団 橋本 一成 元三田市消防団 増田 明弘

元西宮市消防団 分団長 瀬川 康次 元今田町消防団 団長 後藤 幹史 元神戸市長田消防団 団長 小嶋 賢三 元明石市消防団 分団長 尾西 輝雄 元元加古川市消防団 分団長 大西 操 元元西市消防団 副団長 竹仲 四郎 元元宮市消防団 分団長 瀬川 康次

元高砂市消防団 分団長 長岡 正一 元尼崎市消防団 分団長 橋本 一成 元三田市消防団 分団長 増田 明弘 元播磨地区 姫路市消防局 福田 哲也 元播磨地区 小野市消防本部 照本 真善 元播磨地区 宍粟市役所 橋本 徹 元但馬地区 豊岡市役所 太田 裕生 元丹波地区 丹波市消防本部 瀨上 充之 元淡路地区 淡路市役所 大植 和幸

東播磨地区 明石市消防本部 池内 泰典 元東播磨地区 丸岡 輝雄

第二八回 「兵庫消防」地区通信員会議開催 「兵庫消防」のリニューアルに向けて 兵庫県消防協会事務局



地 区 通 信

「結成五年目を迎え」
加古川市消防団女性分団」

加古川市消防団

平成一八年四月、消防団の充
実強化、市民への防火広報の拡
充を図るため東播磨地区で初め
て女性だけの分団「加古川市消
防団女性分団リバーエンジェル
ス」を結成しました。会社員、
主婦、パート、学生など様々な
仕事を持つ女性二〇名が集まり
活動を開始しましたが、結婚、
転職などにより現在は当
初からの団員一〇名と新たに七
名が加わり一七名で活動してい
ます。

結成当初、全国的に「女性団
員」という言葉が注目されつつ
あったため、様々な活動を期待
していましたが、実際は全員
が消防団一年生ばかり、消防へ
の志はあったものの消防団活動
というよりは研修や勉強会ばか
り、防災訓練や救急講習、A E
D講習、ときには市の行事に飛
び入り参加し防火広報を行って
いました。また、男性分団から
の依頼による防火パレードや幼
稚園の消防訓練への参加、消防



救急講習



消防出初め式はしご乗り演技

本部予防課員と合同で独り暮ら
しの高齢者宅の防火訪問など女
性団員全員が手探りの消防団活
動だったように思います。
結成三年目、ほとんどの女性
団員が応急手当普及員の資格を
取得することができたため、男
性団員を対象に普通救命講習会
を開催、これが初めて女性分団
が自ら企画し、単独で行うこと
ができた消防団活動だったかも
しれません。また、男性分団と
合同で行ってきた幼稚園の消防
訓練もようやく定着し、女性団
員が自ら赤い消防自動車を運転
し幼稚園へ行き、手作りの防災
紙芝居の演劇が園児や同世代の
保護者にも好評で単独での訓練
依頼も増えてきました。
しかし、救急講習や消防訓練
だけでは、女性団員としての活
動として物足りなくなってきた
ころ、全国の女性消防団員が参
加する全国女性消防団員活性化
岡山大会に参加、全国の女性団
員の様々な工夫や取り組みを拝



幼稚園消防訓練防火指導

見し、分団内の消防団活動に対
する意識に少しずつ変化が見
え、受け身になりつつあった消
防団活動から自ら推進してい
くような消防団活動を目指し
もつとつと「女性分団リバー
エンジェルス」をピーアールし
ようと、新春恒例の消防出初め
式はしご乗り演技に女性団員が
初めて挑戦することになりました
た。男性分団に負けられないよう
に一〇月から練習を開始、はしご
の高さは五メートル、乗り手と
はしご確保五名の息が合わなけ
ればすぐにバランスを崩してし
まいます。そのはしごの上で、
縦大の字、横大の字、からかさ、
背亀、肝だめし、藤下がり、鯨
ほこの七つのはしご演技を披露
するため練習を重ねました。平
成二二年一月一〇日、消防出初
め式当日は晴天にも恵まれ、た
くさんの観覧者の中、男性分団
に勝るとも劣らないはしご乗り
演技を披露することができたこ
とは、「女性分団リバーエンジェ
ルス」を大きくアピールでき
たように思います。また、この
成功で「やればできる」、「もっ
ともっと新しいものに挑戦した
い」という気持ちが分団内で沸
いてきたように思います。
さらに消防団活動の幅を広げ
るため平成二二年四月から女性

「出初式に思う」

加東市消防団長
常峰



登

加東市は、平成一八年三月に
旧加東郡の社・滝野・東条の三
町が合併してできたまちで、県
の中央部に位置しています。
私は、昭和五七年に二四歳で
旧滝野町消防団に入団しました
が、その頃は、大人の男性は誰

もが当然のように団員になり、
それが地域に認められる証とさ
れていました。
当時の、滝野町消防団は、
一一の分団と二二〇名の団員か
ら構成されており、他の二町の
半分以下で出初式も規模の小さ
いものでした。
新入団員として初めて出初式
に出席した時、張りつめた式典
の中で、任命辞令を団長から受
けて、地域防災の気概に燃えた
ことを、今でも鮮明に覚えてい
ます。
時は移り、合併して五年目を
迎えた今年度の出初式は、七五
分団の車両を一堂に参集した大
規模なものになりました。

穏やかに晴れ渡った青空のも
と、二〇、〇〇〇平方メートル
の広大なグラウンドに真っ赤な
消防車がズラリと並んだ景色は
壮観で、千人を超える団員の徒
歩行進する姿は、勇壮そのもの
でした。
柴崎彰孝団長が勇退され、今
年度から団長に就任した私は、
これからの団員の一致団結を求
めて、訓示の中で「加東市消防
団ガンパロー」の掛け声に対し、
全ての団員が「オー」と大合唱
してくれた時は、とても感動し
ました。
当支部も、新入団員の減少で
定数維持が困難な状況となって
いますが、この力強い大合唱で



観閲

「消防団今昔」

洲本市消防団長
竹口 弘之



弘之

私は、昭和三七年一月、一八
歳で洲本市消防団へ入団しまし
た。当時、分団ではオート三輪
の消防車両を導入したばかり
で、運転免許を持っている団員
を増やす必要があったため、分
団幹部の方から私へ入団の勧め
がありました。
その頃は、入団しても訓練や
講習も特に行われていなかった
ため、とにかく先輩団員の活動
ぶりを見て技術を習得するのに
必死だったものです。そのよ
うな中で初めての出動となっ
たのは山火事でした。分団管
轄地域は山間部を中心に非常
に広範囲に亘っており、とか
く山火事が多い地域で、その
時も現場まで一時間かけ、徒
歩で出動したことを覚えています。
今でもそうですが、山
火事の場合、水利は乏しく、
資機材も十分でない状況で放
水もままならず、鉈を使いな
がら周囲の木を伐採して延焼
拡大の阻止に努めるばかりで

消防団今昔

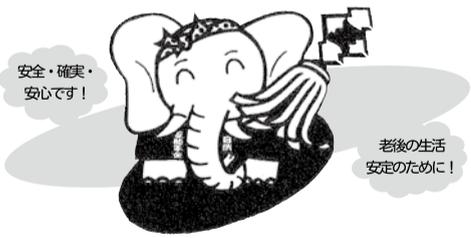
68

した。
また、当時の分団の気質とい
いますか、とにかく分団間の競
争心が非常に強かったと思いま
す。とりわけ、私が所属してい
た分団は「消防操法」へ力を入
れ始めていた時期でもあり、そ
の頃、洲本市消防団をリードし
ていた他の分団へのライバル心
を強く持ち、雨風も問わず、毎
晩練習に励んでいたのを記憶し
ています。

その結果、はじめて市の大会
で優勝を掴むことができ、この
経験は分団員の技術と士気を向
上するうえで、大変有意義なも
のとなりました。
最後に、私の消防団活動も今
年で四八年目となりましたが、
引き続き、地域の人々の安全・
安心のため、微力ながらも消防
人として精進していきたいと思
います。

みんなで入ろう互助年金

消防互助年金



安全・確実・安心です!

老後の生活
安定のために!

【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代! 老後の準備は怠れません
消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・会議などの際に、お呼びいただければ(財)日本消防商会の職員が説明に伺います
- ・費用は無料ですし、些少ですが会議費を助成致します
- ・消防互助年金制度説明用ビデオの貸し出しをしております

老後は長くしましう
問い合わせはフリーダイヤル 0120-658-494

「消防団に入団して」

香美町消防団香住支部
香住第一分団

長 誠



私が消防団に入団したきっかけは、町役場に勤務しているということもあり地元消防団員の方々から熱心な勧誘を受け、入団を決意しました。

私が所属している香住第一分団は、香美町の北部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな地区を管轄しています。

入団して二ヶ月程たった時、操法大会に向けて練習が始まり

ました。操法という言葉は初めて聞いた私には全く想像のつかないものでした。練習になると先輩方の消防に対する熱意が全ての動作に表れており驚きの連続でした。

「この練習が実際の火災で役に立ち、地域の安全につながる。」ある先輩が何回も口癖のように言っていました。

操法大会も終わりしばらくして地区の寄合い中、実際の火災が発生し、先輩と共に火災現場に向かうことがありました。出動の時の俊敏な動作や、火災現場での的確かつ冷静な動作はまさに経験と訓練のたまものでした。操法大会練習の時の先輩の言葉を実感し、先輩のような消防団員になりたいと思った瞬間でした。

そのために先輩方の消防に対する熱意、姿勢を見習って経験

と訓練を積んでいき、「地域の安全は自分たちで守る。」という強い気持ちで活動をしていきたいと思っています。



われら若手消防団員

(28)

「地域を守りたい」

三田市消防団
第六分団四班

デイビッド・ヘブラー



アメリカのオレゴン州から一九九三年に来日し、姫路市や宝塚市を移り住みながら結婚を機会に妻の実家である三田市へ二〇〇八年一月に引っ越ししてきました。

私が、三田市へ引っ越しして初めての春、妻とドライブしていると田畑から勢いよく濃煙が上

がっているのを見つけ、急いで消防本部を訪ね事情を説明しました。すると、その煙は、地域の野焼きであり、日本では昔から行っている害虫駆除のひとつである事を教えて頂き、また、その野焼きを警戒しておられた方々は、私達と同じ一般市民でありながら、災害が発生した時は、消防服に着替え、いち早く現場へ駆けつけて市民の生命や身体・財産を守る消防団員であることも初めて知りました。

三田市消防本部の受付で聞いたとき、直ぐに担当の方が窓口に見え、消防団は地域の組織、地域の理解がなければ消防団員として活動する事は難しいことを教えて頂き、地区の幹部団員と入団の話し合いをすることになりました。

数日後、私が住む地区の幹部団員から入団の面接を受けましたが、「ミナサンノ、テツダイガシタイノデス」この一言で、私の思いが伝えることが出来たのか、地元分団皆さんのご理解を得て、入団が決まり三田市消防団第六分団の団員として活動することとなりました。

秋の火災予防週間の真最中、午前六時に器具庫のサイレンが鳴りました。「カジだ」入団説明の時、器具庫のサイレンが

地区通信

地域の安全安心を守るため

豊岡市竹野消防団

豊岡市は、平成一七年四月に兵庫県の北東部に位置する北但一市五町が合併してできたまちで、中でも竹野地域は、北部の海岸線から南部の山間地域まで、変化に富んだ地形を有し、国立公園・国定公園に指定されるなど、自然に恵まれた地域です。

豊岡市竹野消防団は、昭和三〇年三月、旧四村が合併して竹野村消防団として誕生し、町制により竹野町消防団となり、昭和四八年一月に組織の再編が行われ、現在の六分団、一三部、定数三五八名の体制となりました。

豊岡市竹野消防団では、消防出初式、夏季訓練などの全団員参加の事業に加え、分団ごとに不時招集訓練や学習会を実施し、分団ごとの自主性、独自性を大切にしています。

このように、各分団で独自に考え、自主的な訓練を実施して消防力を高めています。三年に一度、全団員参加で実施する不時招集訓練は、こういった訓練の集大成ともいえる内容となっています。不時招集訓練の実施日や内容は、訓練当日まで幹部団員以外には通知されることなく計画されます。

平成二二年度は各分団で学習会を開催し、普通救命講習会や河川からの中継送水訓練、部隊訓練など、分団ごとの課題や実状にあわせた多様な取り組みを実施しました。平成二二年度には、各分団で不時招集訓練を実施し、北部を担当する分団では、近畿でも有数の海水浴場として民宿などが密集する地域での火災を想定し、また南部を担当する分団では、竹野川流域の

散している地域での火災や山林火災を想定した訓練を実施するなど、趣向を凝らした訓練が実施されます。

このように大規模な訓練は、地域住民の理解と協力が不可欠です。サイレン吹鳴や防災行政無線の緊急放送、消防車両のサイレンなど、訓練会場付近では特にあわただしくなります。ややもすれば迷惑と思われるかもしれせん。日頃から、地域住民への啓発活動や住宅の火の元点検の実施、災害時のパトロールなど、地域に密着した消防団活動が、地域住民の消防団に対する信頼に繋がっているからこそ実施できる訓練ではないかと思えます。



不時招集訓練 (中継送水訓練)



普通救命講習会

北から南から

「人と自然が輝くまち三田を守れ」

三田市消防団

武庫川と北摂の山々に抱かれた自然豊かなまち、三田市。大阪や神戸の大都市に隣接し、北摂・北神・丹波地域の中核都市として成長を続けるとともに、人と自然のぬくもりも大切にしています。

また、三田出身の著名人の方についても少し披露させて頂くと、日本で初めてビールを醸造、カメラやマッチも試作し、今年で生誕二〇〇年を迎える三田出身の蘭学者、川本幸民氏がおられます。この偉大な科学者の生誕二〇〇年を記念し、三田市では今年、幸民を学ぶ連続講座や三田藩主九鬼家ゆかりの地、三重県鳥羽市との交流等さまざまな催しを企画していますので、お近くにお越しの際は、ぜひ立ち寄り下さい。

人と自然の共生として、三田市北部の有馬富士、福島大池、千丈寺湖を中心とした二帯(約四六万㎡)を県下最大の都市公園「県立有馬富士公園」として整備し、雑木林の植生や昆虫を観察できる「林の生態園」や、水田跡を利用し溜め池に生息する生物を学ぶ「水辺の生態園」など、動植物などの自然に関する展示やユニークな体験等を随時開催し多くの親子連れに楽しんで頂いています。

さて、我が三田市消防団の骨格ができたのは、昭和三十三年七月一日の市制施行まで遡ります。この市制に伴い、昭和三十五年に今後の消防団組織のあり方を協議する、消防制度改革審議会が設置されました。合併前の町

村単位に七個分団の設置の決定と、団長以下総勢一七八名の団員定数など基本条例が成立し三田市消防団の新しい門出となりました。その後、幾度となく変遷を重ね、今日の規模の消防団になりました。

現在の三田市消防団は七分団、七〇四名の団員及び可搬付積載車一二台と(社)日本損害保険協会から昨年度寄贈頂いた災害支援車で構成され、複雑多様化する火災や風水害等の災害から三田の輝く財産を日夜、守っています。

平成七年の阪神・淡路大震災以降、大きな要員動員力を有する消防団の役割の重要性が再認識され、昨年の佐用町で発生した水害を含め、市内外を問わず県下の災害にも活動するようになっていきます。

今後、人と自然が共生し、次世代を担っていく若い世代とともに三田市消防団としても時代に則した消防団の運営を計画し、輝くまち三田を守るため、あらゆる災害に対し、柔軟にまた、迅速かつ確実に対応できる組織でありたいと考えています。



福島大池と有馬富士



花山院

住宅火災警報器設置促進の取組

地域推進による取組

総務省消防庁予防課・兵庫県消防課

平成一六年の消防法の改正により住宅用火災警報器(以下住警器という)の設置が義務化されました(本県においても、平成二三年六月に完全義務化となつていきます)。住警器の設置促進については、平成二〇年一二月に決定された「住宅用火災警報器設置推進基本方針」に基づき、各地で様々な取組が展開されているところです。

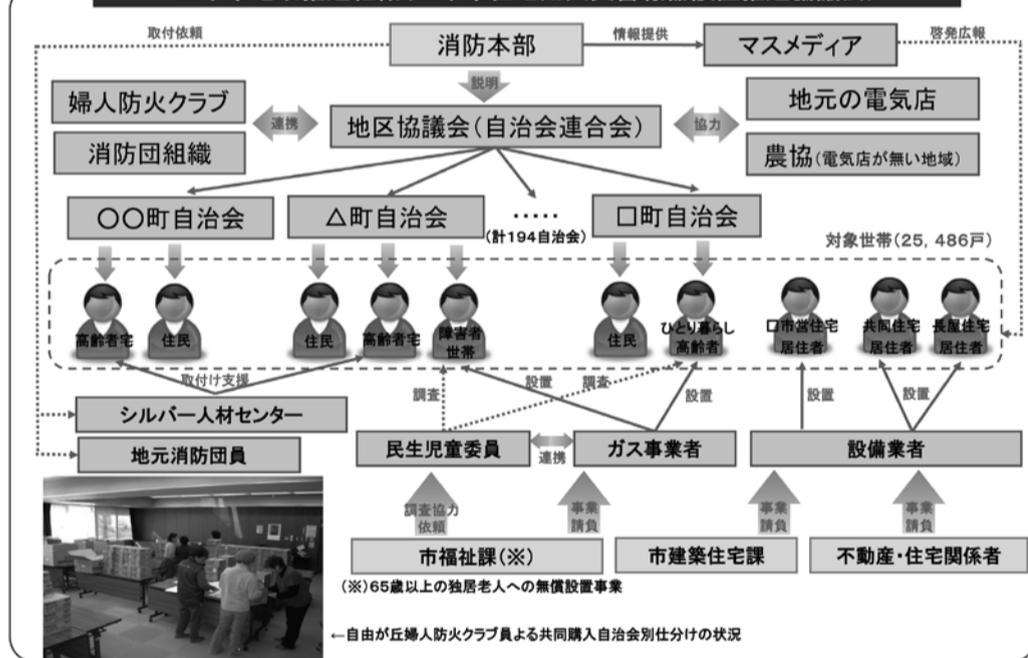
この度、三木市において実践されている地域に密着した取組をご紹介します。

三木市においては、婦人(女性)防火クラブ員とともに消防本部から地区協議会に対し積極的な働きかけを行い、婦人防火クラブ及び消防団と連携し、協議会が地区内自治会を対象として共同購入の回覧と回収、機器配布と集金を行いました。

高齢者宅等で取付け希望がある世帯に対しては、シルバー人材センターの会員により取付け支援を実施しました。共同購入先として、地元の電器店、電器店のない地区ではJ&Aと連携を

地域推進組織による取組(兵庫県三木市の事例)

三木市地域推進組織(三木市住宅用火災警報器設置推進協議会)



- ・操法最適ホース : コンペVシリーズ
- ・小型動力ポンプ : ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車(標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車(モリタ)
- ・消防用資機材全般



西垣消防器具製作所
 669-5213 兵庫県朝来市和田山町玉置461
 TEL:(079)672-3131
 FAX:(079)672-3132
 E-mail: fp-nishigaki@eagle.ocn.ne.jp



図りました。さらに、市福祉課を通じて市内全地区の民生児童委員の調査協力を得て、市内のガス業者と連携しながら、ひとり暮らしの高齢者宅(一、三九五戸)に住警器一個の無償設置事業を実施しました。

ご紹介した三木市の取組も各地域で様々な取組が行われています。総務省消防庁ではこうした取組事例を収集中であり、その一部は現在「住宅防火情報」として全国の消防機関へも配信されています。こうした情報が各地域において共有されることで、それを参考とした様々な工夫が実践され、住警器の設置が推進されることが期待されます。

編集後記

日々新緑の色を増すこのごろですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今月号の一面には平成二二年春の叙勲の伝達式及び受章者の方々を掲載しております。栄えある叙勲を受章されましたことを事務局一同心からお喜び申し上げます。

また、一面に掲載しているとおり、今年度より「兵庫消防」の編集方針を改め、より掲載内容を多様化し、充実させていくことが先日開催された地区通信員会議で決定されました。今年度より、リニューアルした「兵庫消防」を乞うご期待!